

## 南ア、財務相人事を巡るドタバタは収束へ

～市場からの信認引き止めには一旦成功も、政権の求心力低下は不可避～

発表日：2015年12月15日(火)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 主席エコノミスト 西濱 徹(03-5221-4522)

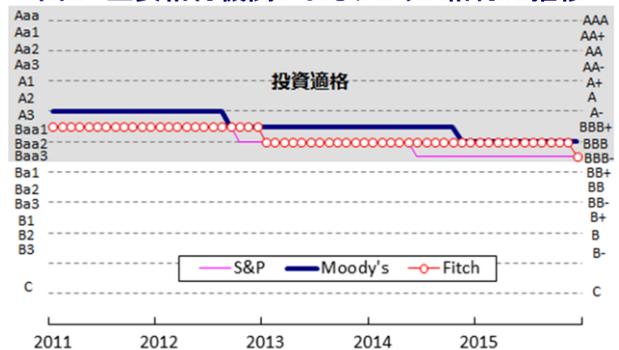
### (要旨)

- 南アフリカでは今月9日にネネ財務相が突如更迭された。同氏を巡っては、ズマ大統領周辺が進める国営企業の投資計画による財政負担の増大を警戒する姿勢を強めた結果、大統領周辺との関係悪化が取り沙汰されていた。今月に入って以降、格付機関が相次いで格付見直しの動きを進め、ネネ氏が財政健全化に向けた取り組みを強めようとしたことも、ズマ大統領周辺との軋轢を生むことに繋がったと考えられる。
- ただし、この不透明な人事騒動は国際金融市場からの信認低下を招いた。結果、13日にズマ大統領は人事を撤回して元財務相のゴードン氏の再登板を決定し、ゴードン氏は格付維持を財政運営の中心に据えんとしており、市場は落ち着きを取り戻している。他方、ズマ大統領の求心力低下は避けられないなか、ゴードン新財務相には前回登板時以上に慎重な財政運営が求められる環境にあると言えよう。

### 《ゴードン元財務相の再登板で市場の不安は一旦後退するも、一連のドタバタで政権の求心力低下は避けられない》

- 南アフリカでは今月9日、ネネ財務相が突如更迭されることとなり、与党アフリカ民族会議（ANC）の武闘派のベテラン議員、且つズマ大統領に近いとされるバンルーエン氏を後任とする人事が発表された。この突然の人事劇を巡っては、ズマ大統領の肝いりで進められている国営電力公社（ESKOM）による原子力発電計画に加え、国営南アフリカ航空（SAA）の航空機購入計画などに伴い、国営企業に対して多額の財政負担が必要になるとの見方が強まるなか、ネネ氏が計画実現により財政悪化が進むことに警鐘を鳴らす姿勢を示し、結果的にズマ大統領周辺との関係が悪化したことが影響したとみられている。なお、今月に入って以降主要格付機関は相次いで同国のソブリン格付の見直しに動いており、S

図1 主要格付機関によるソブリン格付の推移



(出所)主要格付機関のHPなどより第一生命経済研究所作成

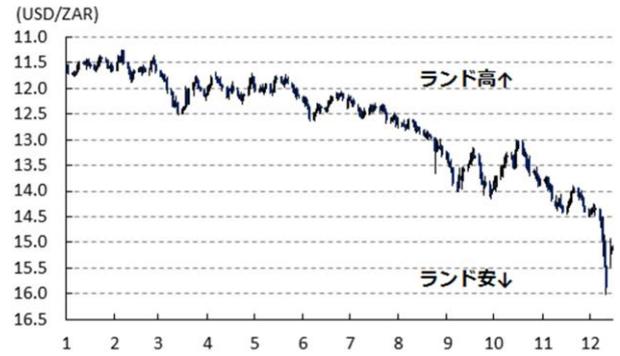
- 付が「投資不適格（ジャンク級）」に転落する可能性が高まったと判断出来る。こうしたことから、ネネ氏は財政健全化をより重視する姿勢を強めたと考えられるものの、同国経済が景気低迷に喘ぐなかで景気下支えを図りたいズマ大統領周辺にとっては「邪魔な存在」に映った可能性があり、上述の突如の更迭劇に繋がったと考えられる（詳細は10日付レポート「[突如の財務相更迭に揺れる南アフリカ](#)」をご参照ください）。
- しかしながら、こうした不透明な政策運営の代償は同国経済に様々な悪影響を与えることは避けられない。折しも米国による利上げ実施を控えて世界的なマネーの動きが大きく変化するとみられるなか、国際金融市場では経済運営、特に財政運営に対する不透明感が強く意識されたことで資金流出が進み、通貨ランドの対ドル為替レートは過去最安値を更新したほか、株価も急落し、国債利回りも急上昇するなど市場からの圧力が強まっ

た。足下の同国経済を巡っては、7-9月期は辛うじてテクニカルリセッション入りは免れているものの、国際商品市況の低迷などが重石となり勢いの乏しい展開が続いているなか、国際金融市場におけるマネーの動揺を背景に通貨ランド安が進展している。中銀は景気低迷が続いているにも拘らず、ランド安阻止に向けた通貨防衛の観点から、年明け以降も7月と11月に立て続けに利上げを実施するなど防戦を強いられているが、市場においては上記のような大統領周辺による不透明な政策運営が中銀の努力を「無駄」

にすると捉えられた可能性が考えられる。こうしたなか、ズマ大統領は13日になって財務相人事の変更し、バンルーエン氏からズマ政権発足時から昨年まで財務相を務めたゴードン協調統治・伝統業務相を新財務相とすることを発表した。ゴードン新財務相は元々財務相経験者であることに加え、ネネ氏の前任として財政健全化に配慮する財政運営を図ってきたことから、金融市場には安心感が戻る動きがみられる。ゴードン氏自身も就任会見において、同国のソブリン格付の「投資適格」維持に向けて努力する姿勢を示したことも投資家の間に安心感が広がる一因になったと考えられる。他方、一連の財務相人事を巡るドタバタでは政権及び与党内からズマ大統領の「資質」に対する疑問が噴出する事態となっており、折からの景気低迷も重なって政権の求心力低下が一段と進むことも考えられる。中国の景気減速により世界的な資源需要の急拡大が見込めないなか、今月初めのOPEC（石油輸出国機構）総会が機能不全となったことで原油相場の低迷が続くなど、国際金融市場の不確定要素となったこともあり、世界有数の資源国である同国経済を取り巻く環境は一段と厳しくなっている。足下の対外ポジションなどをみれば、ソブリン債務がデフォルト（債務不履行）に陥るリスクは必ずしも高くないものの、資源関連を中心とする民間債務を巡っては世界的な流動性のひっ迫やランド安などが債務負担能力の増大を通じて資金繰り悪化を招くリスクはくすぶる。ゴードン新財務相には前回登板時以上に慎重な財政運営が求められていると言えよう。

以上

図2 ランド相場(対ドル)の推移



(出所) THOMSON REUTERS より第一生命経済研究所作成